

東アジア時代 九州連合体を

姜尚中氏の講演 詳報

提論 明日へ

本紙の大型企画「提論 明日へ」（毎週日曜 日朝刊掲載）のスタートを記念し、提言委員で

政治学者の姜尚中さんの講演会「わたしと九州」が5月29日、福岡市のアクロス福岡で開催された。市民約900人を前に姜さんは、東日本大震災への対応が急務であるにもかかわらず混乱する政治状況を厳しく批判。東アジア原子力共同体の創設を主張した。さらに、古里・九州への愛着を強くし、東アジアの時代に九州連合体をつくり、日本をリードしていく」と熱く訴えた。

九州の最大の問題は足の引つ張り合いが多いことだろう。それをやめてオール九州でまとまり、それぞれの県の優位性を生かすべきだ。私はそれを九州ミニEU共同体、もしくは九州連合体と呼んでいる。具体的には、県をなくし、九州を特区化して完全に分権化したらいいと思う。国よりは下のランクの広域的



カン・サンジュン 1950年、熊本市生まれ。早稲田大学大学院博士課程修了後、ドイツ留学。国際基督教大学准教授などを経て、現在、東京大学大学院情報学環教授。専攻は政治学、政治思想史。著書は新書「悩む力」、自伝的小説「母一オモニ」、最新刊は「トーキョー・ストレンジャー」。

誰がどう見ても、これからは東アジアの時代だ。九州は、かつて日本列島で最も文化の進んだ地域だった。そんな時代がもう一回来るかもしれない。こういうことを私は「地理的な舞台転換」と言っている。世界史をおさらいしてほしい。ヨーロッパで地中海を中心にした都市がなぜ廃れたのか。それは中心が大西洋に移ったからだ。これからは、世界の中心が東アジアに移り、舞台転換が起こる可能性がある。

「1割九州」といわれる九州。人口は1300万人、GDP(国内総生産)は約50兆円、九州全体の地方公共団体の歳出総額は5兆円。これらは日本全体のほぼ1割を占めるにすぎない。しかし、世界全体で見れば、東アジアの占める役割は大きく、九州は東アジアへのゲートウエー(中継拠点)に

特区化・分権化進めよ

九州の未来 中継拠点役割大きい

なることができる。いかにして東アジアのエネルギーを引き入れ、モノ、カネ、ヒト、情報、サービスを九州内に循環させるかが重要だ。九州には200万都市はない。一方、九州を囲んでいる周りの東アジアには、

台北、釜山、ソウル、上海、北京など大都市が多い。だから、九州は(都市という点ではなく、九州全体の)面に対応していくべきだと思う。九州の面積はだいたい台湾と同じだが、台湾の輸出量は九州全体の5倍以

上。九州にはそれだけのエネルギーと潜在力があるということだ。九州は自然環境、地場産業、特産品、農業など、いろんなものを組み合わせることができ。なかでも、九州新幹線は決定的に大き

な自治体の方が、いろんなことにフットワークよく対応できる。今回の震災と原発事故で分かったのは「時間が命」ということだ。だから、九州連合体をつくるべきなのだ。さしあたり、人口規模に応じて県議会

員が集まった、ある種の準備議会のようなものを作り、持ち回りで県の首長が九州の首長に選ばれるようにしたい。九州全体をゾーニング(区分)して、それぞれの県の特徴を生かしながら、その中で全体を調整していけばいいのではないか。時間がかかると思うが、5年か、3年以内で中間答申を出して、この方向で行く、と決まれば、その青写真に沿い、将来のマスタープランをつくるべきだ。

ベースとしては、農業と自然環境を生かし、その上に観光や製造業や地場産業を生かし、大学教育などに配慮した「本当に豊かな九州」をつくることはできると思う。九州が気概を持っていけば、日本をリードしていける。東アジアの重要な拠点として九州の未来はありうる。今、九州は、おそらく戦後最大の曲がり角に来ている。

われわれは、もう今までのように自分たちの内輪の小さな利害だけで生きていく時代ではない、ということとを、あの震災から教えられた。夢のある九州を次の世代に残すためにも小異を捨ててではなく、小異を置いて大同に付くべきだ。